令和５年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅰ

(様式１－１)**令和５年度　中堅教諭等評価票（自己評価用）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | 職名 |  | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 学年団・  担任等 |  | 担当教科・校務分掌等 | | |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評　価 |
| A　素養・資質 | 使命感 ・ 責任感 | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持に努めることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の教育に携わることができる。 |
| コミュニケーション | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えを受け止め、適切な助言やかかわりができる。  ・報告、連絡、相談を適切に行い、子どもや保護者、同僚との信頼関係を築くよう努めることができる。 |
| 自己研鑽 | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自らの専門性を高めることができる。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を持ち、同僚と学び合いながら、よりよい教育実践に改善しようと努めることができる。 |
| B　知識・技能 | 子ども理解 | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づくりに  努めることができる。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に応じた  適切な指導や支援をすることができる。 |
| 学習指導 | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 |  |
| (例)・学習指導要領の教科、領域等の趣旨やねらいを理解し、教育課程を適切に運営する  とともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることで、児童生徒の資質・  能力の向上に努めることができる。  ・周囲からの意見、自己の授業の振り返りや適切な学習評価等を基に、積極的に授業  改善に取り組み、より一層専門的な知識や技能を身に付けることができる。 |
| 生徒指導 | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 |  |
| (例)・他の教員と組織的に対応しながら、学級や学年の児童生徒の実態を把握し、よりよ  い集団づくりに取り組むことができる。  ・児童生徒の自己存在感を高め、成長を促すための適切な指導や支援をすることがで  きる。 |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅教諭等として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅教諭等として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | | | 評　価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自己の役割を果たし、積極的に学校づくりに  参画することができる。  ・学年団や分掌等における自己の役割を自覚し、学校の課題解決に向けて、チームで対応することを意識して、業務に取り組むことができる。 | | |
| 参画 ・ 運営 | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | |  |
| (例)・保護者や地域、外部の専門機関等との連携の必要性を理解するとともに、積極的に  かかわり、組織の一員として、迅速に対応することができる。  ・担当する校務分掌について、迅速かつ正確な処理をするとともに、協働的な教員集団の雰囲気づくりができる。 | | |
| 危機管理 | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | |  |
| (例)・学校の危機管理に必要な知識を持ち、安全管理に対して適切な対応をすることができる。  ・的確な判断の下、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全に留意した指導をすることができる。 | | |
| 特別な配慮や支援を  必要とする  子どもへの対応 | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子どもの  特性、気持ち及び困難の背景等の理解を基に、支援計画を立て、適切な指導や支援  をすることができる。  ・関係教職員、保護者や関係機関等と連携し、個々の課題を解決するために指導や支  援の工夫を図ることができる。 | | |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | |  |
| (例)・ICTを効果的に活用した授業を展開したり、児童生徒の学習や生活に関わる個人情  報等教育データを適切に活用したりすることができる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うことができる。 | | |
| 研修に向けての課題等 |  | | | | |
|  | | | 評価年月日 | 令和　　年　　月　　日 | |

令和５年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅰ

（様式１－２）　 **令和５年度　中堅教諭等評価票(案)（校長評価用）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | 職名 |  | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 学年団・  担任等 |  | 担当教科・校務分掌等 | | |  |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅教諭等として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅教諭等として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評　価 |
| A　素養・資質 | 使命感 ・ 責任感 | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持に努めることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の教育に携わることができる。 |
| コミュニケーション | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えを受け止め、適切な助言やかかわりができる。  ・報告、連絡、相談を適切に行い、子どもや保護者、同僚との信頼関係を築くよう努めることができる。 |
| 自己研鑽 | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自らの専門性を高めることができる。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を持ち、同僚と学び合いながら、よりよい教育実践に改善しようと努めることができる。 |
| B　知識・技能 | 子ども理解 | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づくりに  努めることができる。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に応じた  適切な指導や支援をすることができる。 |
| 学習指導 | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 |  |
| (例)・学習指導要領の教科、領域等の趣旨やねらいを理解し、教育課程を適切に運営する  とともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることで、児童生徒の資質・  能力の向上に努めることができる。  ・周囲からの意見、自己の授業の振り返りや適切な学習評価等を基に、積極的に授業  改善に取り組み、より一層専門的な知識や技能を身に付けることができる。 |
| 生徒指導 | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 |  |
| (例)・他の教員と組織的に対応しながら、学級や学年の児童生徒の実態を把握し、よりよ  い集団づくりに取り組むことができる。  ・児童生徒の自己存在感を高め、成長を促すための適切な指導や支援をすることがで  きる。 |

受講者名

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | | | | | | 評　価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自己の役割を果たし、積極的に学校づくりに  参画することができる。  ・学年団や分掌等における自己の役割を自覚し、学校の課題解決に向けて、チームで対応することを意識して、業務に取り組むことができる。 | | | | | |
| 参画 ・ 運営 | | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | |  |
| (例)・保護者や地域、外部の専門機関等との連携の必要性を理解するとともに、積極的に  かかわり、組織の一員として、迅速に対応することができる。  ・担当する校務分掌について、迅速かつ正確な処理をするとともに、協働的な教員集団の雰囲気づくりができる。 | | | | | |
| 危機管理 | | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | |  |
| (例)・学校の危機管理に必要な知識を持ち、安全管理に対して適切な対応をすることができる。  ・的確な判断の下、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全に留意した指導をすることができる。 | | | | | |
| 特別な配慮や支援を  必要とする  子どもへの対応 | | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子どもの  特性、気持ち及び困難の背景等の理解を基に、支援計画を立て、適切な指導や支援  をすることができる。  ・関係教職員、保護者や関係機関等と連携し、個々の課題を解決するために指導や支  援の工夫を図ることができる。 | | | | | |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | |  |
| (例)・ICTを効果的に活用した授業を展開したり、児童生徒の学習や生活に関わる個人情  報等教育データを適切に活用したりすることができる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うことができる。 | | | | | |
| 総　合　所　見 |  | | | | | | | | |
| 評価  年月日 | | 令和　　年　　月　　日 | | 評価者 | 職名 | 校長 | 氏名 |  | |

（様式２）　　**令和５年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅰ実施計画書(案)**

校名（　　　　　　　　　　　　学校）　　　　　　　　　受講者名　（　　　　　　　　　　 　 ）

校長名　（　　　　　　　　 　 　 ）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 個人研修課題 | |  | | |
| 月 | 県教育センター等における  研修 | | 校内等における研修  □：研究授業、教材研究等研修(５日程度)  ■:課題研究(５日程度) | 事前課題・提出物等 |
| ４ |  | |  |  |
| ５ |  | |  |  |
| ６ |  | |  |  |
| ７ |  | |  |  |
| ８ |  | |  |  |
| ９ |  | |  |  |
| 10 |  | |  |  |
| 11 |  | |  |  |
| 12 |  | |  |  |
| １ |  | |  |  |
| ２ |  | |  |  |
| ３ |  | |  |  |

選択型研修受講予定　※希望する研修に〇をつける（申し込みが必要な場合は、管理職を通じて行う）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 選択 | 内　　容 | 選択 | 内　　容 |
|  | ①　専門研修又は教職大学院連携研修の受講 |  | ④　県教育センター研究発表会に参加 |
|  | ②　公開授業・研究授業に参加 |  | ⑤　独立行政法人教職員支援機構（NITS）動画教材の受講 |
|  | ③　香川の教育づくり発表会に参加 |  | |

（様式２）記入例　　**令和５年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅰ実施計画書(案)**

実施計画書案が決定したら、案を取り、実施計画書として提出する。

校名（　　　　　　　　　　　　学校）　　　　　　　　　受講者名　（　〇〇　〇〇　　　　　 ）

評価票案等に基づき、中堅教諭等の意見や希望を参考にしながら決定する。

校長名　（　〇〇　〇〇　　　　 ）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 個人研修課題 | | ・思考力・判断力・表現力等を育成するための学習指導の工夫  ・児童が自尊感情を高め、豊かな人間関係を築くための学級経営の工夫 | | |
| 月 | 県教育センター等における研修 | | 校内等における研修  □：研究授業、教材研究等研修(５日程度)  ■：課題研究(５日程度) | 事前課題・提出物等 |
| ４ | 「Ⅲ １ 県教育センター等における研修」を基に作成する。（６日） | | 「Ⅲ ２ 校内等における研修」を基に作成する。（１０日程度）**研究授業は２回実施する。** | ○自己評価票、実施計画書案作成・提出（校内） |
| ５ |  | |  | ○評価票案、実施計画書案提出（10日）  〇希望調査FAX提出（10日）  ○実施計画の決定  ○実施計画書提出（17日） |
| ６ | ○県教育センター主催研修  （６日） | | □研究授業に向けた学習指導案検討会  □研究授業及び授業討議(３年国語)  （研究授業１回目） | 〇「生徒指導に関する事例研究」資料準備  （29日・センターへ提出） |
| ７ | ○県教育センター主催研修  (26日） | | □要請訪問研究授業に向けた教材研究・学習指導案検討（28日提出に向けて）  ■家庭との連携、保護者対応 | 〇学習指導案の作成・検討・提出（28日・センターへ提出） |
| ８ | ○県教育センター主催研修  （１日）  ○県教育センター主催研修  （22日・附属坂出小学校） | | ■プログラミング研修 | 〇板書計画、教材の試作等準備  （８月22日附属坂出小学校での研修に向けて） |
| ９ | 〇オンライン研修  「生徒指導について」受講 | |  | 〇オンライン研修「生徒指導について」レポート作成 |
| 10 |  | | □要請訪問研究授業及び事後指導(３年国語)　　　　　　　　　（研究授業２回目） |  |
| 11 |  | | ■人権・同和教育　隣保館訪問 |  |
| 12 | ○選択型研修受講  「香川の教育づくり発表会」に参加 | | ■スクールカウンセラー講話 | ○「学習指導における成果と課題」資料準備  (１月５日集合研修に向けて)  〇選択型研修受講報告書の作成及び提出 |
| １ | ○県教育センター主催研修  （５日） | | ■教育相談についての事例検討会  □研究授業参観(５年社会) | ○研修受講記録提出（校内） |
| ２ |  | | ■次年度の学習指導計画作成  （今年度の学習指導の成果と課題を踏まえて） | ○実施報告書作成・提出（校内） |
| ３ |  | |  | ○研修報告書提出 |

選択型研修受講予定　※希望する研修に〇をつける（申し込みが必要な場合は、管理職を通じて行う）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 選択 | 内　　容 | 選択 | 内　　容 |
|  | ① 専門研修又は教職大学院連携研修の受講 |  | ④　県教育センター研究発表会に参加 |
|  | ②　公開授業・研究授業に参加 |  | ⑤　独立行政法人教職員支援機構（NITS）動画教材の受講 |
| 〇 | ③　香川の教育づくり発表会に参加 |  | |

(様式３－１)

令和　　年　　月　　日

Fax

送信先　：　香川県教育センター　　　　　　　　　　　　　　　　　中堅教諭等資質向上研修Ⅰ（小・中）担当者　宛

**研究協議希望調査票　(手引Ｐ９参照)**

　校名(　　　　　　　　　　　　　　)

　　　　　　　　　　　　　　　　　校長名(　　　　　　　　　　　　　　)

受講者名(　　　　　　　　　　　　　　)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 回 | 内　容 | 記　入　欄 | |
| 第５回 | 研究協議  「学習指導における課題解決  と指導力向上に向けて」 | 校種等 | 小学校　　中学校　　特別支援  〇を付ける |
| 学　年 | 第　　　　学年 |
| 教科名 |  |
| 希望する  附属学校  の番号 |  |

○　受講者は、各学校の管理職と相談の上、校内研究授業（２回目）で実施する予定の学年や教科等を決定し、記入欄に記すこと。

○　「希望する附属学校の番号」の欄には、「１ 附属特別支援学校」「２ 附属坂出小学校」「３ 附属高松中学校」「４ 附属坂出中学校」「５ 附属高松小学校」から、希望する会場を番号で記入する。各附属学校における開催教科については、Ｐ９を参照すること。

**※　開催通知が届いた後に提出**

送付先　　　香川県教育センター

　　　　　　FAX　０８７（８８１）３２７０

送付期限　　令和5年５月１0日（水）

（様式３－２）　　　　　　　　　　生徒指導に関する事例研究

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校名 | 学校 | 職名 |  | 受講者名 |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 選択したものに〇 | 分　科　会 | |
|  | １ | 学校不適応・不登校 |
|  | ２ | 発達障害に起因する生徒指導上の問題 |
|  | ３ | いじめ・ネットトラブル等問題行動 |
| 題　名 |  | |
|  | | |

（様式３－２）記入例　　　　　　　生徒指導に関する事例研究

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校名 | 学校 | 職名 |  | 受講者名 |  |

どれか一つを選択し〇をつける。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 選択したものに〇 | 分　科　会 | |
|  | １ | 学校不適応・不登校 |
| 〇 | ２ | 発達障害に起因する生徒指導上の問題 |
|  | ３ | いじめ・ネットトラブル等問題行動 |
| 題　名 | 衝動的な行動をとる生徒Ａ  事例に題名をつける。 | |
| １　対象生徒について  　対象生徒Ａは、運動は好きであるが、・・・・・・・・・であり、友人とトラブルを起こすことが多い。特に・・・。また、授業においては・・・。普段の生活面では・・・。  ・１、２、３の項目は例であるので、変更しても構わない。  ・内容から個人が特定できるような記述はしない。  　　　　　　　　　　　<避けるべき表現>　　　　　　　　　　<望ましい表現>  〇〇部（具体的な部活動名や委員会名等）に所属　→　運動部に所属  〇〇病院（具体的な病院名や施設名等）と連携　　→　関係機関と連携  〇〇県（具体的な県名や市町名等）から転入　　　→　県外から転入  ２　問題の現状について  　特に気がかりなことは・・・。現在は・・・という対応をとっている。  ３　今後の対応について  　生徒指導対策委員会で、・・・。  ※　Ａ４サイズ１枚（両面印刷可）  ※　記述できないが必要であると思われる情報については、手持ちの資料として用意し、口頭で伝える。  ※　県教育センターへ送付する前に管理職へ提出し、記載内容について指導・了解を得ること。  送 付 先　　香川県教育センター　中堅教諭等資質向上研修Ⅰ担当者あて  　　　　　　〒７６１－８０３１　高松市郷東町５８７－１  　　送付期限　　令和５年６月２９日（木）まで　2部　逓送又は郵送してください | | |

（様式３－３）

中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(小・中)　　　　　　　　　　令和 年 月 日

**選択型研修　受講報告書**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 香川県教育センター所長　殿 | | | | 校名 |  |
| 校長名 |  |
| 受講者名 |  |
| 受講日 | 令和　　　年　　　月　　　日（　　） | | | | |
| 選択研修名 | 番号 |  |  | | |
| 研修の概要 | 点線より左側：①～⑤から選択した番号を記入する。  右側：①を選択した場合は、受講した講座名を記入する。  ②を選択した場合は、実施学校名や学年等を記入する。  ③④を選択した場合は、「香川の教育づくり発表会」  もしくは「県教育センター研究発表会」と記入する。  　　　　　　　⑤を選択した場合は、受講した二つの動画教材名を記入する。 | | | | |
| 受講後の感想等 | ⑤を選択した場合は、受講した二つの動画教材について感想等を記述する。 | | | | |

送 付 先　　香川県教育センター

**〒７６１－８０３１　高松市郷東町５８７－１**

　　受講後、受講報告書を作成し、管理職に確認を得た後、２週間以内に逓送又は郵送してください。

（様式３－４）

中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(小・中)　　　　　　　　　　令和 年 月 日

**オンライン研修（必修）「生徒指導について」レポート**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 香川県教育センター所長　殿 | | 校名 |  |
| 校長名 |  |
| 受講者名 |  |
| 受　講　日 | 令和　　　年　　　月　　　日（　　） | | |
| 研修の概要 |  | | |
| 受講後の感想等 |  | | |

※県教育センターへ提出する前に管理職に確認を得る。

※第６回研修の際に１部持参するか、それまでに県教育センターへ逓送又は郵送する。

(様式例４―１)　**中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(小・中)　県教育センター等における研修受講記録**

校名（　　　　　　　　　　　　学校）受講者名(　　　　　　　　　　　　　)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研修日時 | | 月　　日(　　)曜日　　：　　～　　： | 研修会場 |  |
| 研修内容 |  | | | |
| 研修成果及び感想 |  | | | |
| 研修日時 | | 月　　日(　　)曜日　　：　　～　　： | 研修会場 |  |
| 研修内容 |  | | | |
| 研修成果及び感想 |  | | | |

※学校独自の様式も可

(様式例４―２)　**中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(小・中)　校内等における研修受講記録**

校名（　　　　　　　　　　　　学校）受講者名(　　　　　　　　　　　　　)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 研修日時 | 研修内容 | 研修成果及び感想（指導・助言の内容を含む） |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |

※学校独自の様式も可

※校内研究授業については、討議会での意見や指導・助言の内容も記録すること

（様式５－１）　**令和５年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅰ実施報告書（本人用）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | 職名 |  | | ﾌﾘｶﾞﾅ |  | |
| 受講者名 |  | |
|  | | | | | | | | |
| 観　点 | | 育成指標 | | | | | | 報告及び自己評価 |
| **A**  **素**養・資質 | **使命感・責任感** | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | |  |
| **コミュニケーション** | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | |
| **自己研鑽** | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | |  |
| **学習指導** | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 | | | | | |
| **生徒指導** | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | |  |
| **参画・運営** | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | |
| **危機管理** | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | |  |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | |  |
| 成果と課題 |  | | | | | | | |
|  | | | | | 報告年月日 | | | 令和　　年　　月　　日 |

（様式５－２）　**令和５年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅰ実施報告書（校長用）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | | | 職名 | |  | | | ﾌﾘｶﾞﾅ | |  |
| 受講者名 | |  |
|  | | | | | | | | | | | | |
| 観　点 | | | 育　成　指　標 | | | | | | | | | |
| A  素養・資質 | **使命感・責任感** | | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | | | | | |
| **コミュニケーション** | | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| **自己研鑽** | | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | | | | | |
| **学習指導** | | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 | | | | | | | | | |
| **生徒指導** | | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 | | | | | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | | | | | |
| **参画・運営** | | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | | | | | |
| **危機管理** | | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | | | | | |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | | | | | |
| 総合所見 |  | | | | | | | | | | | |
| 報告  年月日 | | 令和　　年　　月　　日 | | 報告者 | | 職名 | | 校長 | 氏名 | |  | |